

一般質問

■観光振興策について
能越道未着工区間の早期完成を！

木下議員 七尾市の就業者数の約7割を占めるのが第3次産業であり、その大きな柱である観光政策は、地域経済にとって欠かすことが出来ない大切な政策である。これまでに様々な要因で七尾市に訪れる観光客が減少し、それに立ち向かうための政策を打ち続けているが、観光入り込み客数が減少傾向にある。その観光には、インフラ整備が欠かすことが出来ない要素であり、能越自動車道七尾インターからの未着工区間の少しでも早い開通が望まれるが、その見込みはどうか。

不嶋市長 七尾インターから3.4 kmについて、地元への説明会は終わっており、今年の2月には計画路線の中心を示す杭を打つときに私も立ち会った。一歩ずつ着実に事業が進捗していると実感している。今後、国において、用地取得が進み、七尾市としても用地取得の際にはしっかりと全面的に協力していきたい。1日も早い開通に向けて、必要な予算を国において確保するように毎年やっているが、議会、経済界、関係団体が一丸となって、国に対してしっかりとお願いをしていきたいと思っているので、引き続き協力をお願いする。

- 【その他の質問項目】
- 七尾市財政の健全性
 - 中心市街地活性化の推進
 - 断水災害に備える対策



木下 敬夫 議員
(無会派)



能越道七尾インター

一般質問

■福祉入浴施設の廃止による利用者への負担軽減
入浴施設を利用しやすい体制強化を！

伊藤議員 サンライフプラザと中島の「すこやか」にあった福祉入浴施設が老朽化に伴い廃止されることになったが、施設では入浴以外に体操教室や手芸教室など、入浴で心身のリラクセスをするともに、認知症予防の取り組みなどができる楽しい交流の場であった。今回、高齢者の方に12枚綴りの入浴券を補助し、市内の入浴施設に足を運びやすくする施策が示されたが、交流の輪を継続できる対策と、各地域の周遊バスのルート変更などをして周辺の入浴施設を利用しやすい体制強化をお願いしたいが、どうか。

津田健康福祉部長 サンライフプラザと中島の「すこやか」に限らず、広く交流の場が確保されるのは自立支援や介護予防に繋がる。市では介護予防グループデイなどの支援のほか、社会福祉協議会でも行っている寄り合いの場で自主的な通いの場の支援を行っている。また、バスルートについて、中島地区では4月から「すこやか」から「いやしの湯」の区間に直行便を1日1便増便する予定である。田鶴浜地区と能登島地区は、地区内を走行するバスで入浴施設を発着する便があり、七尾地区は「まりん号」や路線バスで最寄りの入浴施設の利用をお願いしたい。

- 【その他の質問項目】
- 朝日小学校通学路の安全対策
 - 七尾市通学路交通安全プログラム
 - マイナンバーのびったりサービス



伊藤 厚子 議員
(無会派)



中島健康老人福祉センターすこやか

一般質問

■消防体制の見直しによる効果について
消防体制の見直した成果は！

杉木議員 昨年4月から和倉消防署を設置し、新たに1台救急車を増車配備し、七尾鹿島全体で6台の救急車が配備されたが、救急車の配備先の救急出動状況はどうだったのか。また、3消防署体制となって、前年と比べて対応がどのように変わったのか。

長門消防長 和倉消防署の救急出動件数は、1月末で539件。全体の出動件数は、昨年と比較して220件増の2626件で、そのうち和倉救急が全体の20.5%を占めている。和倉救急が増えたことで、各救急隊の出動率は、七尾で16.9%、灘浦で37%、中島で15.1%、能登島で32.2%の減となった。同じ地域で出動が重なった場合、以前は遠方の救急隊がカバーしていたが、今はより近い救急隊でカバーでき、現場到着時間を大幅に短縮できるようになった。救急車の到着時間は全体的に約2分半短縮され、特に和倉温泉や田鶴浜地区へは、今まで10分かかっていたのが今は5分で到着できるようになり、大きな効果を得ている。また、3消防署体制により和倉消防署から2隊同時出動も可能となり、早期から多くの消防車を災害現場へ投入することが可能となった。和倉消防署には、化学車を中心とした特殊災害の専門部隊を編制することができ、総合的に大きな効果が得られた。

- 【その他の質問項目】
- 七尾市の定住促進住宅



杉木 勉 議員
(灘会)



和倉消防署の車両